

PRESS RELEASE

報道関係者各位

自動生成 AI 技術を実装した「次世代遠隔画像診断」が、 中小医療機関の経営と患者サービスを同時に実現させる。 AI 開発を加速する株式投資型クラウドファンディングを 11 月 4 日より FUNDINNO で開始

ViewSend ICT 株式会社は、地方の医師不足と厳しさを増す病院経営を背景に、**保険診療に対応した遠隔画像診断支援サービスの AI・自動化を進めます**。2026 年 11 月、社会実装を加速するため株式投資型クラウドファンディングを開始します。

背景：地方の医師不足と、深刻化する病院経営

74.6%

2024 年度
医業「赤字」病院の割合

地方を中心に画像診断専門医が不足する一方、病院経営も厳しさを増しています。四病院団体協議会の調査では、2024 年度に医業赤字となった病院は 74.6%。物価・人件費の上昇が医療現場を圧迫しています。さらに 2026（令和 8）年度には診療報酬改定が行われ、保険医療機関連携には持続可能な診療体制構築と経営の両立がこれまで以上に求められています。

出典：四病院団体協議会調査（2025 年 12 月 1 日）

保険診療対象	遠隔画像診断管理加算 算定可能	AI で診断支援を高度化
保険医療機関同士の連携で 遠隔画像診断支援を実施	施設基準を満たすことで 病院経営の改善に寄与	所見生成支援・集計・保守を支援し 医師と現場の負担を軽減

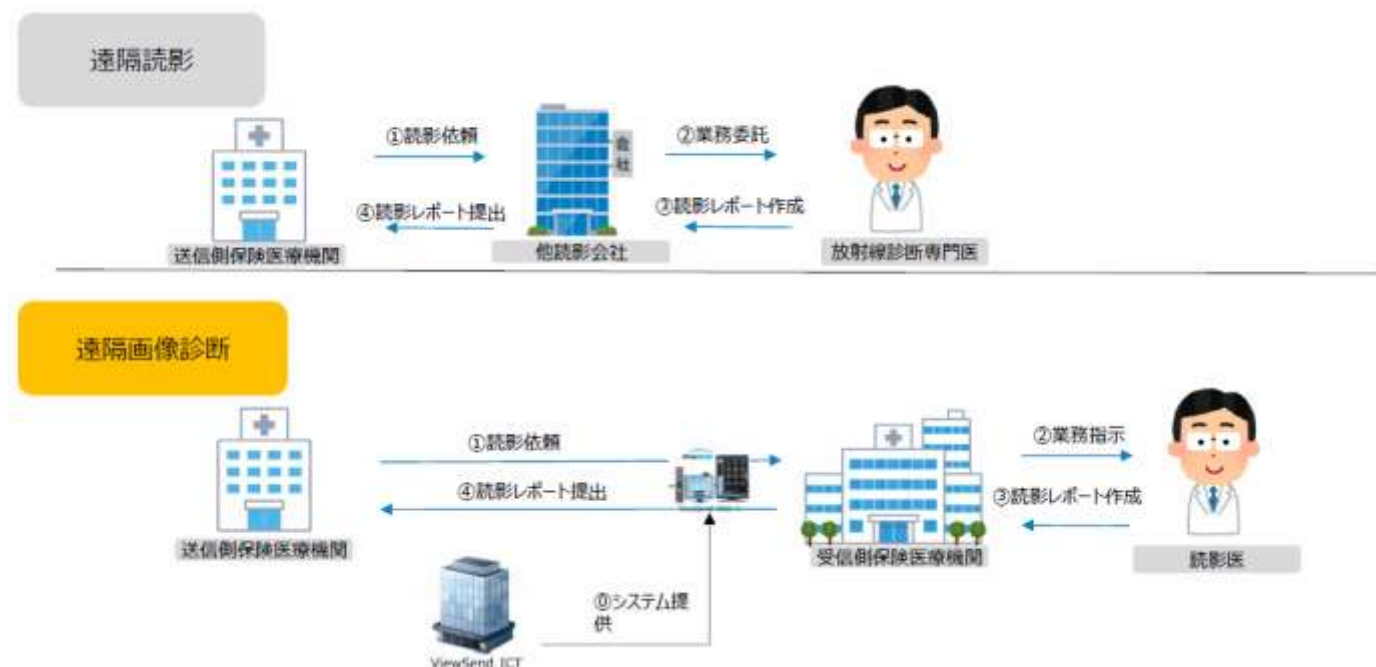
株式投資型クラウドファンディングで目指すもの

今回の資金調達では、既存の遠隔画像診断支援基盤に AI と自動化を組み込み、医師・医療機関双方の負担を減らしながら、より多くの地域で利用できる仕組みの社会実装を進めます。

- 遠隔画像診断支援の現場に AI を実装し、読影医の業務負担と認知負荷を軽減する
- 請求・集計・サポート業務を自動化し、より多くの医療機関を支えられる運用体制をつくる
- 専門医が不足する地域でも、質の高い画像診断を継続できるネットワークを広げる

ViewSend ICT が創出する「次世代画像診断支援サービス」の特徴

一般的な遠隔読影	ViewSend ICT の遠隔画像診断支援	提供する価値
読影会社との直接契約 保険診療対象外	保険医療機関間の連携 保険診療対象 遠隔画像診断管理加算 算定可能	医師の負担軽減 診療体制の維持 病院経営の改善



これまでの実績と今回の募集

300 施設超 PACS 導入施設	70 万件強 症例実績	14 年 事業継続実績	約 1,300 億円 未算定領域の市場試算／年
-----------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------------------

- 国立がん研究センターとの「デジタル画像情報に基づいた遠隔画像読影システム」の研究開発を実施。
- 東京都重点戦略プロジェクト等の支援実績を有し、令和 7 年度「デジタル技術を活用した先進的サービス創出支援事業」に採択。
- PACS 導入 300 施設超、症例実績 70 万件強、14 年にわたり遠隔医療を支える事業を継続。

募集期間	2026 年 11 月 4 日～11 月 17 日
実施サイト	FUNDINNO
目標募集額	5,040,000 円
募集ページ URL	https://fundinno.com/projects/788

将来の展望

ViewSend ICT が目指すのは、住む地域に左右されず、「医療格差のない、誰もが平等に医療を受けられる社会」です。

将来的には AI を、医師に代わって診断する存在ではなく、医師の認知負荷を減らし、見落としを防ぐ伴走者（コ・パイロット）として機能させることを目指します。医師の判断を支えながら、安全性と診断品質の向上に寄与する仕組みへ発展させていきます。

報道・取材のお願い 医師不足、病院経営、医療 DX、地域医療、生成 AI 活用の観点から取材・情報掲載をご検討ください。

【会社概要・お問い合わせ先】

ViewSend ICT 株式会社 担当：吉田、加藤、芦田 / E-mail: sales@viewsend-ict.co.jp / Web: <https://www.viewsend-ict.co.jp/>
 本件に関する資料ダウンロード先はこちら 「医療格差のない未来へ。AI×遠隔画像診断支援プラットフォーム」※URL を入れる